認定看護師の 活動について

がんの痛みに使用する 薬剤について

緩和ケア認定看護師 寺戸 純子

私は、現在5階南病棟で勤務しながら患者さんやご家 族にがんにともなう身体症状への苦痛や不安に対するケ アを行っています。毎週木曜日は緩和ケアチームで各病 棟のラウンドをしています。看護師から患者さんの痛み や症状に関するケアの相談を受け、患者・家族へのケア を一緒に考えています。

今回は、がんの痛みに使用する薬について説明します。

「がんの痛みに使用する薬剤について」

がんの痛みに使用する痛み止めをオピオイド鎮痛薬(医 療用麻薬)といいます。オピオイド鎮痛薬の使い方には WHO (世界保健機構) で定めた国際ルールがあります (図1)

①患者さんが自分一 人で使用すること ができる「飲み薬」 で始めるのが基本 です。ただし、飲み 込めないなど問題 や副作用が問題と

なる場合は、貼り

WHOの基本5原則

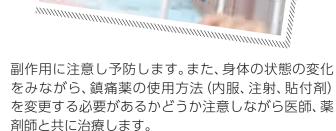
- ・時間を決めて定期的に投与する
- WHOのラザーに従って
- 個別的な量で



図 1

薬(皮膚から痛み止めを吸収させる製剤)や注射薬、坐 薬を使うこともできます。薬は、患者さんの症状によっ て選びますが、病院によって使うことができる薬の種 類に違いがあるので、医師や薬剤師に相談しましょう。

- ②がんの痛みを治療するオピオイド鎮痛薬は、「痛くなら ないように使用する」「鎮痛薬の効果が途切れないよ うに継続して使う」ことがとても重要です。通常、一定 の間隔で規則正しく使います(12時間、24時間、3日 ごとなど)
- ③がんの痛みには、さまざまな種類があり、オピオイド 鎮痛薬は痛みの強さに応じて使い分けます。痛みの強 さや、使った上での効果を見て、段階的に痛み止めを 選んでいきます。
- ④がんの痛みの治療の目的は、まず患者さんの痛みが十 分にとれることです。その上で、吐き気や便秘などの



鎮痛の目標を段階的に立てて 緩和していきます。(図2)



第二段階。對對時的編集者包含

第三段階: 体制所の個別者がます。

「日常生活のポイント」



貼付剤の使用時は、張り替える時間の設定を入浴時間 と合わせましょう。貼付したままの入浴は体温の上昇 に合わせて薬の体内への吸収量が増加する可能性があ るので避けましょう。

●食事

食欲がないときは、食べやすい食事の工夫をしましょ う。嘔気症状などが続けば主治医へ相談してください。

◆排泄

便秘症状があるときは、お腹の張りや排ガスに注意 して早めに主治医へ相談してお薬を服用しましょう。

最後まで「その人らしく過ごせる」ように、医師や薬剤 師と一緒にケアの方法や薬剤の使い方など患者さんの苦 痛の緩和に努めていきたいと考えています。また、緩和 ケア病棟だけではなく、患者さんの療養の場がどこでも

あっても緩和ケアが 受けられる環境が提 供できることを目指 しています。





